

ネットワーク動向

コンセプト「6社合同で未来への家造りを計画し、実行する団体」

青森の地域工務店グループが事業報告会

市内業者の活動活性、売上は平均1.4倍に

合同展示場などを展開する工務店グループ「奥津軽ECO住研」の事業説明会が11月22日に行われた。その場で「ミライエ・プロジェクト」へのグループの名称変更が発表された。

同グループは地元工務店の三浦建設、ヤマノアークデザイン、岩淵建築

工務所、小嶋建設、高松工業、今工務所の6社により2008年結成。当時、事業展開する五所川原エリアに総合展示場はなく、市内での他地域業者の着工が6割を超えていた。そこでグループを結成し期間限定の販売型展示場をオープン。あわせてオール電化や高断



事業報告会の様子



MIRAI PROJECT

共工事除く）は約16億円だったが、最も高かった2014～15年は約31億円ではほぼ2倍。展示場展開後6年間の一期ごと平均売上は約22.5億円で、約40%の売上増加となっておりグループ結成の効果をあげている。

会発起人の小嶋英嗣さん(小嶋建設)は、「売り上げの増加した分、外への資産や人材の流出を防げたと思う。他地域業者との割合も逆転してきた。一緒にやることで住宅のクオリティも上がっており市場の活性化につながっている。今後も互いに切磋琢磨してより良い家を地域に提供したい」と話した。同会は来年春に第5弾の展示場をオープンさせる予定だ。

フオーセンスの宮崎フオーラムに180人

「ユーザーの多様化」テーマに情報共有

フオーセンス(東京都千代田区、飯島政治社長)は11月16・17日、14回目を数える「フオーセンスフオーラム」を宮崎市で開催。180人が参加した。チトセホーム(宮崎県)、さつまホーム(大分県)、坂井建設(大分県)の工務店3社が役員を務め、各社各様の実践情報を公開。毎年11月は、宮崎で営業・設計・経営のヒントを共有するのが恒例で、今回は「多様化するユーザーへの取り組み」をテーマに掲げた。

1日目は、チトセホームのZEH適合モデルハウス2棟を見学したうえで、最新の取り組みを明かした。「デザインは見ればわかるので、「性能が高くない」といい家とは言えない」を積

極的にアピール。また地方都市では多数派をターゲットにした戦略が有効だ。彼らはシンプルミニマルを好む。個性・オリジナリティは必要なく、仕上げ・納まりの質を高めることが重要。既製品を使ってそれでもシンプルで美しい家を高コストでつくれるよう標準化したフオーセンスのノウハウは、多数派戦略に合う」(西山哲郎社長)とした。さつまホームの新留巧三社長は、自社が打ち出す高額・ワンプライスの2通りの戦略を公開。坂井建設の坂井泰久社長は、会社を成長させる人材採用・研修の方法を明かした。

会員向けの新サポートとして、①1人で年20棟受注の実績をあげたワンゾ



チトセホームの最新モデルハウスの2棟を見学した

ライオス住宅パッケージ「リベルテ」、②高性能戸建て賃貸「ラジヨナル・メ

アールシーコア

売上高 半期では過去最高に

次期は販社制度改革に取り組む

アールシーコア(東京都渋谷区、二本浩三社長)の決算説明会が11月24日行われた。2017年3月期上期の契約棟数は488棟と昨年同期並みだったものの、直販の増加から契約高自体は5%の増。また売上高は65億3500万円で同3%の増加で半期では過去最高となった。

2017年3月期の業績予想では、堅調な来場維持を前提に契約棟数で前期を13%、契約高は15%上回る。「これまでの営業教育制度の強化により質の向上が見られた」(同社)ことから今後は量の向上へつなげる。

工務店11社と建材業者2社で取り組み

地球の会がカーボン・オフセット大賞で奨励賞

第6回カーボン・オフセット大賞の結果が11月28日、発表された。NPO法人環境共棲住宅・地球の会(大阪市北区)のCO2分科会が進めているカーボン・オフセット運動が奨励賞を受賞した。

同会では、有志による「アース&グリーン・未来プロジェクト」(リーダー:鷺見建材、石橋常行社長)を結成、地域工務店11社と建材事業者2社で全国規模でカーボン・オフセットに取り組

んできた。

実施したカーボン・オフセット量は、地域工務店の構造材を算定規模に77トンとしても、建材業者の建材を算定規模に10トンの合計87トン。クレジットは、プロジェクトメンバーであるトライ・ウット(大分県)の森林吸収系クレジットを使用した。

同団体では、今回の受賞を励みにさらなる多様な取り組みを通じて循環型社会の構築を推し進める考え。